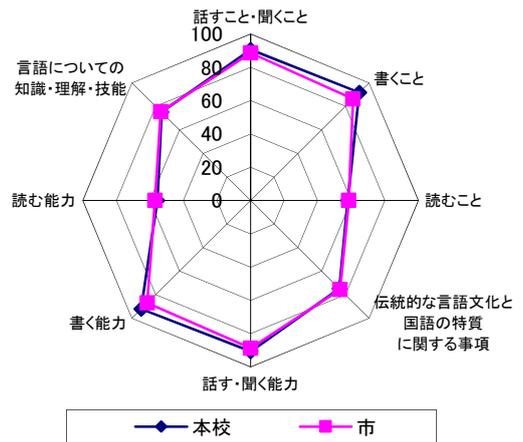


# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	90.6	88.7	89.1
	書くこと	91.7	86.4	64.2
	読むこと	57.9	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.9	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	90.6	88.7	89.1
	書く能力	92.2	87.1	66.7
	読む能力	55.6	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	75.1	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

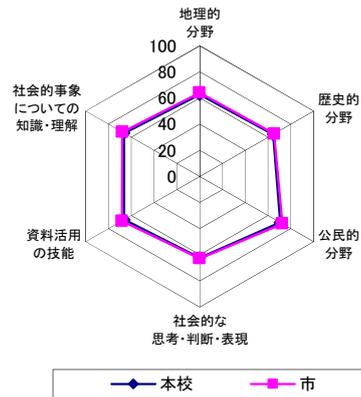
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」に関しては、市の平均よりも1.9ポイント上回っている。 ・特に、「話し合いの内容を聞き取る」問題で、「根拠を明確にして自分の意見を話すことができる」かを問う設問では、市の平均を3.2ポイント上回り、本校が目指すコミュニケーション能力が結実し始めている。	・今後も引き続き、1対1、少人数グループ、グループでの発表など、対話型の授業を継続して行い、「話す力」「聞く力」を向上させていくような指導をしていく。 ・また、全体の前での発表や発言をする力、メモを取ってしっかりと聞き取る力(要点をまとめる力)も付けさせていきたい。
書くこと	○「書くこと」に関しては市の平均よりも5.3ポイント上回っている。 ・特に本校では「書くこと」が苦手な生徒が多かったが、「作文」を書くことに慣れてきた様子が見られる。「指定された文字数」「段落構成」「考え」「考えた理由」など、指示されたとおりに適切に記述し、各観点で4.5～7.4ポイント市の平均を上回っている。	・今まで、発言や発表する前に、聞き手や読み手を意識した文を書いてみることから文を書くことへの抵抗を減らすようになってきた。 ・今後は、さらに「作文」として質を向上させていくよう、原稿用紙の使い方、文章や段落の構成などに注意をさせ、自分の感想や考えを、より正確に他者に伝えるような作文を心がけさせていきたい。
読むこと	●「読む力」に関しては市の平均よりも1.3ポイント下回っているが、参考値よりも2.7ポイント上回っている。 ・「説明文」の内容を読み取る問題の「文章の内容をとらえたうえで、それを別の事例に当てはめる」設問や、「文章の展開に即して内容をとらえる」設問では、市の平均を2.8～4.3ポイント下回った。	・以前から「文学的な作品」の読解に比べて「説明文」の読解への苦手意識が高く、克服に向けて指導してきた。 ・今後も「段落の役割」「指示語」「接続語」などに注意して「段落の構成」や「筆者の考え(主張)」をしっかりととらえることができるように丁寧に指導していきたい。 ・また、「筆者の考え(主張)」を自分の考えと比較したり、他の事例に当てはめることができるような応用力も身に付けさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、市の平均よりも0.6ポイント下回っているが、参考値よりも3.9ポイント上回っている。 ・「古典」の内容を読み取る問題の「文章の展開に即して内容をとらえる」設問では、市の平均を7.1～7.4ポイント下回った。	・今後も、漢字の読み書き、歴史的な仮名遣いなどについては小テストなどにより向上が見られてきたので、今後も継続して指導していきたい。 ・文法や古文については、苦手意識をもっている生徒が多くみられるので、練習問題に数多く当たるなどして苦手意識を減らすとともに、理解を深めさせていきたい。

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.6	64.0	50.9
	歴史的分野	64.5	65.3	57.1
	公民的分野	70.5	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.3	62.9	52.3
	資料活用 の技能	66.3	68.2	58.1
	社会的な 思考・判断・表現	66.3	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の正答率は、参考値は上回っているが、宇都宮市の正答率より下回っている。</li> <li>地理的分野では、大問1(2)の雨温図を選ぶ問題。大問2(1)の複数の資料から正しい文章を選ぶ問題。大問3(1)の地図上から同経度・緯度の選択問題。</li> <li>以上の、1年生の既習事項が特に低かった。</li> <li>本校の3年生は、基本的な一問一答の問題は得点できるが、資料を活用する問題が不得意ということが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨温図の読み取りは、設問になる雨温図の読み取り方を確認し、さらに地域の特徴を絞れるように問題演習を行う。</li> <li>資料の読み取りに関しては、長文になってしまうほどポイントが絞れなくなる。問題演習を行う中で、文章の正誤を判断し、「資料内の情報」と「文章内の情報」でどこが違うのかを判断させるように訓練したい。</li> <li>緯度経度は、授業中や解説の中で、常に地図帳を開かせる意識をもたせ、分からなければ何度も引かせる事を徹底させる。(領域の範囲、各国と日本の位置なども同様と考える)</li> </ul>
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の正答率は、参考値は上回っているが、宇都宮市の正答率より下回っている。</li> <li>歴史分野では、中世の入試で聞かれた際に、得点率が低い部分が出題された。(古中生も正答率低い)</li> <li>特に、大問5(2)の建武の新政における武士の変化。大問6を通した「近世の日本と世界のつながり」の問題ができていない。</li> <li>文化史は、一問一答の基本問題でも正答率低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中世は、鎌倉から室町に移行する中で、武士の立場が大きく変わる時代であり、今回の問題は「武士の種類」と「天皇の政治方針」を融合的に聞かれた。1年次の授業でも、注意しないと理解が難しい範囲になるので、何度も問題演習で補強していきたい。また、「鎌倉・室町幕府の機構の違い」も問われやすく、生徒も理解しにくい分野なので、合わせて復習させたい。</li> <li>近世は、日本と外国がどうつながっていたのか。同時代に、世界はどう動いていたのかの、「よこの歴史」を意識し、資料集などで随時確認させたい。</li> <li>文化史は、テスト前、入試前に総復習を行う。</li> </ul>
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の正答率は、参考値は上回っているが、宇都宮市の正答率より下回っている。</li> <li>しかし、短文記述の問題は3問ともに正答率はあがっていた。</li> <li>公民分野では国会の「議院内閣制度」、「法律制定の流れ」、「憲法改正の手続き」分野、裁判制度の仕組み、地方自治の中の「直接請求権」分野の正答率が下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民は、毎日のニュース・新聞などで刻々と変わる政治と国際情勢を生徒自身が感じていかなければならない。まずは、毎日の新聞を見る、ニュースを見る習慣を身につけさせたい。</li> <li>苦手克服のためには、大きく2つある。1つ目は、公民の問題で出される数字(有権者数や法改正に必要な割合など)の区別をきちんとできること。2つ目は、手続きの「流れ」をイメージできることだと考える。問題で聞かれる文章が、「どこが正しく、どこが間違っているのか」を把握するためにも、類似の問題を数多く説き聞かれるパターンを覚えてしまうことが一番早い解決策だと考える。</li> </ul>

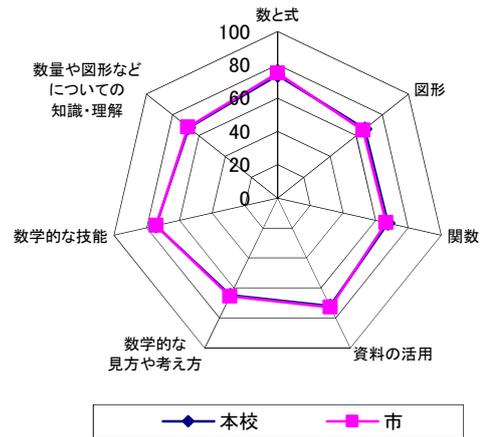
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.9	75.0	70.3
	図形	66.7	65.2	63.4
	関数	67.4	66.4	51.5
	資料の活用	72.1	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	64.8	65.5	55.1
	数学的な技能	74.3	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.9	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

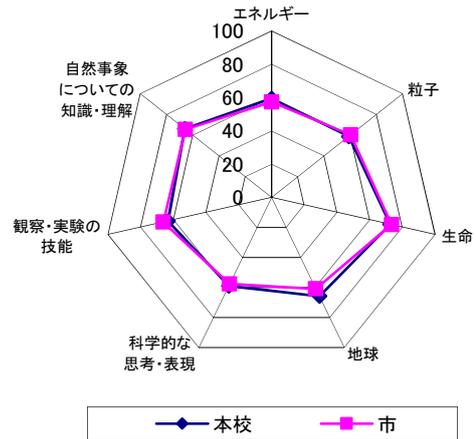
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を1.1%下回っている。</li> <li>○正負の数の計算、式の計算は良好であり、特に乗除の混じった計算は市よりも14.5%高い。基本的な連立方程式を解く問題は89.1%で市を5.6%上回った。</li> <li>●平方根の計算、2次方程式の計算、2次方程式を立式する問題は市を下回っている。</li> <li>●基石を並べて正三角形や正方形をつくるときの基石の数を表す式を読み取る問題が市を下回った。</li> </ul>	<p>基本的な計算を着実に定着させるために、今後も個別指導や反復練習などの充実を図る。平方根の大小や計算の理解を深めるために復習の機会をもちたい。</p> <p>問題を解決するために方程式をつくることの理解が不十分である。1年生の学習の1次方程式から、関係を見つけて方程式をつくる練習をさせ、連立方程式、2次方程式と発展させ、定着させたい。</p>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を1.5%上回っている。</li> <li>○線分の中点を求める作図、証明のなかで対頂角を表す問題は、市を6%程度上回っていた。</li> <li>●回転移動した図形を選ぶ問題は市を2.5%下回った。</li> </ul>	<p>合同の証明は2年生の学習内容である。「平行と合同」「三角形と四角形」そして3年生の「相似」「円」とつながっていく。過程と結論の意味、証明のしくみや進め方をもう一度復習させ、理解を深めさせたい。</p> <p>相似であることを利用して線分の長さを求めることができない生徒には復習の機会をもち、しっかりと理解させたい。</p>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を1.0%上回っている。</li> <li>○グラフの切片と傾きの意味の理解を見る問題は市より7%上回っていた。</li> <li>●2次方程式の変化の割合を求める問題は市を7%下回った。</li> <li>○示された問題を修正するためにグラフをどう活用すればよいかを問う問題は市を3.1%上回った。</li> </ul>	<p>「関数」についての基本的な内容をしっかりと理解させるとともに、発展的な課題に取り組ませる機会を多くもつ。基本的な知識、技能を活用すること(具体的な場面でグラフを利用するなど)で、その面白さや便利さを体験させるようにしたい。</p>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を0.7%下回っている。</li> <li>●相対度数を求める問題が市よりも1.4%低い。2つのサイコロを投げるときの確率を求める問題が2.8%低い。</li> <li>○7個の球から1個取り出すときの確率を求める問題が市より1.4%高い。</li> </ul>	<p>「資料の活用」は1年生の学習内容であるため、用語の意味や求め方などを繰り返し確認し、定着を図るようにする。</p> <p>いろいろな確率については、樹形図や表を使って求める方法を、再確認し定着を図りたい。</p>

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.5	57.5	51.6
	粒子	58.9	60.3	53.0
	生命	72.5	73.4	67.9
	地球	65.8	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	58.8	57.7	51.5
	観察・実験の技能	63.3	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	66.2	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

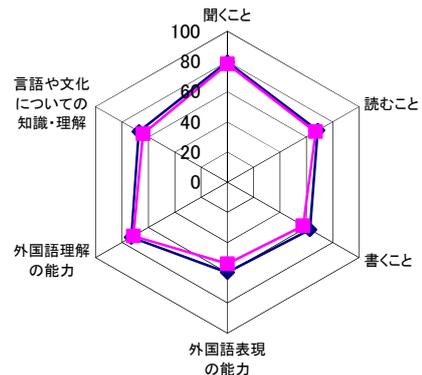
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は、宇都宮市・参考値の両方を上回っている。「光の性質」に関する問題では、すべての設問の正答率が市・全国の平均値を上回るなど、良好な結果である。「電流の性質」と「仕事とエネルギー」に関する問題では、電熱線の抵抗や仕事の量を求めるなどの計算問題において、市の平均を下回っている。	エネルギー領域では、自分の目で実際に見たことと作図や計算で求めることの結びつきを理解するのが難しい。そのため、できるだけ多くの実感を伴った体験を重視することで、さらに理解を深めたい。計算問題に対して、苦手意識が強い生徒が多いので、基本的な問題を小テストにしたり、例題演習を増やしたりすることで、達成感を得られる工夫をしていきたい。
粒子	正答率は、参考値は上回っているが、宇都宮市の平均値は下回っている。特に、「物質の成り立ち」に関する問題では、すべての設問の正答率が市の平均値を下回る結果となり、水の電気分解についての理解が浅いと考えられる。「水溶液の性質」や「水溶液とイオン」についても市の平均値を下回る設問がある。	「物質の成り立ち」や「水溶液の性質」、「水溶液とイオン」について、物質が粒子でできているイメージや粒子の組み合わせが変わることによって化学変化が起きることの理解が弱いと考える。そのため、モデルを使った説明を増やし、1年生の「物質の成り立ち」から3年生の「水溶液とイオン」のつながりを重視した授業を展開していく。
生命	正答率は、参考値は上回っているが、宇都宮市の平均値は下回っている。「遺伝の規則性と遺伝子」に関する問題では、宇都宮市と全国の平均値を下回る設問が多い。遺伝子についての理解が浅いことが分かる。また、「植物のからだのつくりとはたらき」については、物質分野にも関連する設問の正答率が市の平均を下回っているが、他の領域に比べると正答率は高いと言える。	遺伝の学習では、生殖細胞が作られるときの減数分裂や分離の法則などについて、図やモデルを有効活用してイメージを持たせる工夫をしていく。また、遺伝の問題は文章が長く、読解力も必要である。他教科との連携も図りながら、文章を正確に読み取る力も身に付けさせたい。生命分野が好きな生徒は多いので、他の領域との関連も意識した授業展開を考えていく。
地球	正答率は、宇都宮市・参考値の両方を上回っている。「大気中の水蒸気の変化」では、正答率が宇都宮市・全国の平均値を両方上回るなど、良好な結果である。空気中の水蒸気に関する基本的な知識が身に付いていると言える。「火山」に関する設問においても、火山噴出物についての正答率が高く、宇都宮市・全国の平均値を上回っている。	地球領域では、自然災害に関する注目が高まっている。しかし、そこから得られる恩恵にも支えられて生活が成り立っていることにも視野を広げ、身近な現象や事例を授業に取り入れることで関心をさらに高めていきたい。実物を用意するのは難しいものも多いので、映像教材も積極的に活用し、単なる知識の詰め込みにならないよう、教材研究に力を入れていく。

# 宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.6	78.4	72.9
	読むこと	68.6	66.9	63.2
	書くこと	62.6	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	59.8	54.0	51.1
	外国語理解の能力	73.0	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	67.2	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校      ● 市

## ★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの      ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○ほとんどの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、対話の内容の聞き取りや英文の要点を聞き取る問題については、5%近く上回っている。</p> <p>●英文の要点を聞き取る問題で、好きなスポーツについての問題では89.1%、していないことについての問いでは68.8%の生徒がそれぞれ正解しているが、いずれも宇都宮市の平均を2%程下回っている。</p>	<p>まとまった英文を聞き取り内容を把握することを苦手としている生徒が多いので、ALTとの対話活動や音声教材を工夫し、聞く能力の向上を図っていききたい。</p> <p>また、多くの対話活動を取り入れ、繰り返し口頭練習することにより場に応じた応答ができるよう授業を工夫していききたい。</p>
読むこと	<p>○多くの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、接続詞thatの語形・語法を理解し英文の内容を読み取る問題では、宇都宮市の平均を5%上回っている。ブログの内容を把握したり、その内容を踏まえて感想文を書く問題でも2~5%宇都宮市を上回っている。</p> <p>●助動詞mustやto不定詞、経験を表す現在完了形の問いでは、いずれも宇都宮市の平均を3~5%下回っている。</p>	<p>授業中の活動で、様々なタイプ(ブログ、Eメール、エッセイなど)の英文を読む機会を増やし、まとまった英文を読み慣れる習慣を身に付けさせたい。</p> <p>また、2年生中盤から3年生前半の英文法事項についてはつまづく生徒も多いので、普段の対話活動などで取り入れる機会を増やしたり、復習のドリル練習などを取り入れるなどして、基礎の定着を図りたい。</p>
書くこと	<p>○すべての問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、基本的な語彙では8%、単語の並べ替えの英作文については10%程度宇都宮市の平均を上回っている問いもある。自分の好きなことについてまとまった内容で説明する英文を書く問いでも、83.2%の正答率で宇都宮市の平均を5%上回っている。</p> <p>●同等比較のas~asの文を正しい語順で書く問題では、宇都宮市の平均をわずかに上回るにとどまった。</p>	<p>多くの生徒が、身に付けた知識を活用して、場や条件に合う英文を書くことができている現状なので、その力を更に伸ばしていけるよう引き続き演習を多く取り入れた授業を行っていききたい。</p> <p>また、自分が本当に書きたいことを書くことができるよう、ALTを有効に活用したり、辞書をひく機会を設けるなどして、さまざまな表現方法を獲得するよう支援したい。</p>

## 宇都宮市立古里中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な深い学びの実践	「主体的・対話的な深い学びの実践」というテーマの元、全教科で自分の意見を書いて発表する活動を取り入れた。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」 とてもよくあてはまる 1年 30年度50.4% 29年度35.5% 2年 30年度38.1% 29年度41.9%
地域学校園での学習方法等についての擦り合わせ	地域学校園の学力向上部会で「家庭学習班」「朝の学習班」「付箋辞書班」を組織し、小学校・中学校で方法、形式の擦り合わせを行った。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」 とてもよくあてはまる 1年 30年度69.0% 29年度49.2% 2年 30年度50.0% 29年度55.0% 3年 30年度64.3% 29年度58.9%

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今後も継続して主体的・対話的な深い学びができる授業を全職員で実践するとともに、各学力テストの分析を各教科の教科部会で行い、補うべき項目、分野を明確にした上で、どんな教材を使い、どんな発問をするか等、擦り合わせ、実践していく。